

平成29年度 実施状況報告書 集計結果

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

【第1回～第96回児童学習航海の集計結果】

1. 評価項目について

- 【1】 航海前の学習において、児童は目指す姿1にせまることができたか。
- 【2】 児童は3つの「あ」の約束（安全・挨拶・後始末）を守ることができたか。
- 【3】 児童は目指す姿2にせまることができたか。
- 【4】 航海後の学習に向けて児童が新たな課題をもつことができたか。
- 【5】 児童は自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりして、自分の考えを深めることができたか。
- 【6】 児童は目指す姿3にせまることができたか。
- 【7】 児童にとって、フローティングスクールの学習は良かったか。

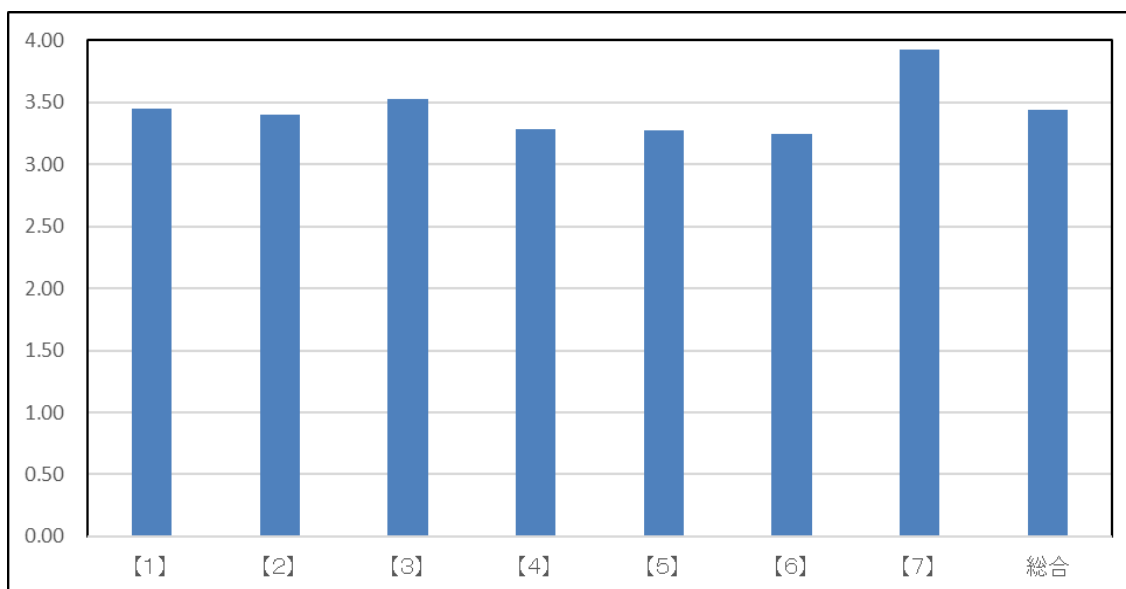
「うみのこ」での2日間の児童の活動の様子を振り返って、自校の児童の全体的な状況を4段階で評価

4…できた 3…どちらかといえばできた 2…あまりできなかった 1…できなかった

2. 調査結果

(1) 各項目における平均値

【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】	総合
3.45	3.40	3.52	3.28	3.27	3.24	3.92	3.44



(2) 各項目における回答の割合



3. 乗船校からの考察・所感（主なもの）

～指導責任者から～

- ・指導計画作成会議で指導計画をしっかりと立ててからフローティングスクールの学習活動を行うことによって指導する教師も児童も目標がはっきりし、児童の深い学びにつなげることができた。
- ・学習に学ぶ視点を与えたことで調べ学習が行いやすく、フローティングスクールでの学習も一貫性のあるものとなった。
- ・フローティングスクールの体験を通して、びわ湖が私たちの生活に豊かな恵みをもたらしてくれていること、私たちの流した排水がびわ湖を汚染していること、山が荒れるとびわ湖の水も濁ることを知り、びわ湖の問題を自分事として考えることができた。
- ・PMI等の思考ツールを用いたことで、子どもたちは意欲的に取り組むことができた。自主的に思考ツールを活用し、考えの整理や発展に役立った。
- ・航海を終えて「びわ湖が好きになった」と言っていた。その気持ちが培えたことが何よりの学びであったと思う。
- ・しおりの作成や事前の打ち合わせに多大な労力が必要となるので簡素化が課題である。

～学校代表者から～

- ・琵琶湖博物館と連携し、航海前の出前授業、また当日のWEB会議等も行われ、内容が大変充実していた。びわ湖学習では、児童の興味関心に合わせた選択型の学習が取り入れられており、「探究的」の名にふさわしい学びができた。
- ・課題意識をもって主体的に関わることができたと実感した。アクティブラーニングの実践であった。